令和４年度第２回　大田区地域包括支援センター運営協議会議事要旨

１．開催日時

　　令和４年10月31日（月）午後１時30分から午後３時00分まで

２．会場

大田区役所本庁舎　２０１・２０２会議室／会場＋Web会議

３．出席者

　 （委員）　奈良会長、富田副会長、髙峰委員、志田委員、井上委員、常安委員、中原委員、髙橋委員、早山委員、佐藤委員

　　（区） 　張間福祉部長、近藤福祉支援担当部長、長谷川福祉管理課長、若林福祉支援調整担当課長、田中元気高齢者担当課長、森田介護保険課長、原介護サービス推進担当課長、浅沼大森地域福祉課長、澤調布地域福祉課長、吉田蒲田地域福祉課長、曽根糀谷・羽田地域福祉課長、黄木高齢福祉課長、事務局

　 （傍聴者）　1名

黄木課長　・事務局を担当する。よろしくお願いしたい。

　　　　　・委員の出席状況を確認。

　　　　　・初めに奈良会長にご挨拶いただく。

奈良会長　・コロナ対策も日々変化している。

　　　　　・年末にかけてのコロナの動きも気になる部分ではある。

　　　　　・本日は有意義な時間にしたいと思う。

黄木課長　・続いて福祉部長からご挨拶させていただく。

張間部長　・地域包括支援センターには、大田区の様々な支援に尽力していただき感謝申し上げる。

　　　　　・地域包括支援センターの対応向上に向けて運営協議会でのご意見を参考に改善に努めている。

　　　　　・医療費の自己負担や介護保険料等、国の様々な動きがある。

　　　　　・いよいよ来年度は第９期の介護保険事業計画の策定作業に入る。

　　　　　・今後も持続可能な大田区の事業を検討していきたい。

黄木課長　・今年度は運営協議会第８期の１年目であり、新規委員の方もおられるため、本日は奈良会長に「高齢者が安心して暮らせるまちを目指し地域包括ケアシステムのさらなる推進　～地域包括支援センターに期待すること～」と題した講演をお願いした。

【講演要旨】

奈良会長　　・今までの社会は高齢者を支える人が多かったが、少子高齢化が進み、1対1で高齢者を支えていくような社会になっていくだろうと考えられている。

　　　　　　・そのため、住み慣れた地域の中で高齢者が安心して自分らしく暮らしていくにはどうしたらよいのかを今後考えていく必要がある。

・自分らしい生活の実現に向けて包括等が働きかけを行っていくことが大切。

　　　　　　・自分らしい生活は個別性が高く人によって異なるため、同じような尺度で対応することができず難しいが、当事者の意図や動機等を可能な限り把握し、問題点や課題を理解していくことが大切ではないか。当事者もある場面では社会資源となることがある。

　　　　　　・地域包括支援センターが地域包摂の中心になってもらえればと思う。

黄木課長　　・本人の社会参加の大切さ、包括による支援の大切さを改めて認識した。

・以降の議事進行については奈良会長にお願いしたい。

奈良会長　　それでは、第２回地域包括支援センター運営協議会の議事に入りたいと思います。

最初に、次第４の報告事項ア「地域包括支援センターの事業評価の中間報告について」、事務局から説明願う。

黄木課長　　（資料１ー１）

地域包括支援センターの事業評価については、第１回運営協議会においても概要等ご説明させていただいた。本日は改めて目的から簡単にご説明する。

事業評価を実施する目的は、包括業務を受託している運営法人及び区が、そのサービスや支援のレベルを共通の基準で把握し、業務の質の向上や、事業が適切に行われているかを把握することにある。

評価手法としては、今年度は国が評価指標として定めている「Ⅰ.組織・運営体制等」と「Ⅲ．事業間連携」の内容を活用しながら、区の独自指標を用いて、区、受託法人及び包括で話し合いを実施する。

今年度のスケジュールとしては、記載のとおり６～７月に国の評価指標への回答、11月に各包括、受託法人も交え話し合いを実施し、１月に運営協議会にて報告となっている。

なお、今年度は３種類のアンケートを実施しており、中間報告については、後程改めてご説明申し上げる。

（資料１ー２）

国の評価指標は、「Ⅰ．組織・運営体制等」として事業を適切に運営するための体制や、利用者が相談しやすい環境が構築されているか等となっている。また「Ⅲ．事業間連携」は在宅医療・介護連携の推進に向けた取り組みや、認知症高齢者を支援するための取り組みを行っているか等となっている。

区の独自指標については６項目とした。

１つ目は「高齢者が抱える課題解決のため、緊急時（個別事案対応や人員体制）含め、総合相談窓口としての対応力向上に取り組んでいるか」とした。第１回運営協議会時に、包括業務の核となる総合相談窓口の視点を取り入れてはどうか、とのご意見があり反映させた。

２つ目は「65歳未満や障害等複合課題への対応にあたって、３職種間での検討や他専門機関等と丁寧かつ積極的な連携を行い、目的を果たせるようにしているか」とした。こちらも第1回運営協議会時に複雑・複合化する問題への対応の視点も取り入れたらどうかとの意見があり、取り入れた。重層的支援の取り組みが始まる中、他の専門機関との連携は必要不可欠であり、課題解決に向けての取り組み姿勢を確認していきたいと思う。

３つ目は「フレイル予防の一環として、高齢者本人や介護予防、生活支援等に取り組む地域住民・グループに対して情報提供や助言を行っているか」とした。地域の住民やグループと必要に応じて役に立つ情報を共有するなど、地域で高齢者を支えていく体制づくりの取り組み姿勢についての指標となっている。

４つ目は「見守りささえあいコーディネーター等の地域づくりの専門職が地域に出向き、その役割を認識しながら地域資源の創出や高齢者を見守るなど地域づくりの活動をしているか」とした。見守り支え合いネットワーク推進業務について、各機関等と連携して実施しているかについての指標となっている。

５つ目は「介護予防ケアプラン（自立支援計画）の質を高めるために体制を整えているか」とした。介護予防ケアマネジメント業務において、ケアプラン作成の質を上げるための取組ができているかについての指標となっている。

６つ目は「ひとり暮らし高齢者名簿や未把握ひとり暮らし高齢者名簿を活用し、民生委員と連携しながらその実態把握に努めているか」とした。包括とつながりづらい高齢者に対して、地域の民生委員さんとも連携しながら、包括と関わるきっかけづくりに努めているかについての指標となっている。

（資料１ー３～１ー５）

今年度は、第三者の視点を取り入れる目的で、地域包括支援センターに対するアンケートを利用者、民生委員児童委員、介護支援専門員（ケアマネジャー）に向けて実施した。アンケートの内容は資料のとおり、資料１ー３が利用者アンケート、１ー４が民生委員児童委員アンケート、１ー５が介護支援専門員アンケートとなっている。

各アンケートの配付方法等について、利用者アンケートは、包括への相談来訪時や地域イベント時等に渡し、高齢福祉課あて返信封筒で回収した。

民生委員児童委員アンケートは、月に1回開催されている各地区ごとの民生委員児童委員協議会を通じて配布、回収した。

介護支援専門員アンケートは、各事業所に送付し、所属しているケアマネジャーに周知、高齢福祉課あて返信封筒で回収した。

本日の報告は途中経過になる。民生委員児童委員アンケートについては現在集計中のため、利用者と介護支援専門員のアンケートの集約状況をご提示させていただく。

（資料１ー６、１ー７）

資料１ー６は利用者アンケートである。総回答数は1,098となっている。

グラフからは、黒い部分「とても満足」、白い部分「満足」の割合が７～８割に達しているものが多いことが読み取れる。それに対して満足度が低めの項目がある。Ｑ８「包括利用で地域の方との交流機会の増加」については、コロナウイルスの影響で人と接触機会が減少している等により他の設問と比べ満足度が低くなっているのではないかと推測できる。

自由意見については、職員の対応が丁寧で相談しやすい等のご意見をいただいた一方で、包括がどのようなことを行っているのか知りたいなど、区民への周知が更に必要とのご意見もいただいた。今後も引き続き包括の活動の周知に努めていきたい。

続いて資料１ー７は介護支援専門員アンケートである。総回答数は393となっている。

グラフからは、Ｑ１「迅速な対応」やＱ２「相談したケースの経過の状況報告」等はある程度評価を得ている一方で、Ｑ６「関係者との連携体制構築の働きかけ」やＱ７「介護支援専門員に関する人材育成の取組み」については満足度があまり高くなく、また、わからないという回答も多い状況となっている。

自由意見については、「いつも助かっている」や「お互い協力して頑張っていけるとよい」等の前向きなご意見をいただいた一方で、職員によって対応がまちまちであったり、技量の差を感じる部分がある等のご意見もいただいている。

常安委員　・資料１ー２について、区の独自指標に記載されている未把握高齢者ひとり暮らし高齢者名簿についてどのような構想をもっているか。

黄木課長　・名簿には区の施策と接点があまりない方を示させてもらっている。

　　　　　・すでに包括には名簿を配付している。10月までに調査し、回収した分の集計をこれから実施する予定。

　　　　　・一人暮らし世帯に加えて、老老世帯（高齢者のみの世帯）等についても実施している。

　　　　　・元気な人であっても、今後包括に相談するきっかけを作る意味合いもある。

常安委員　・民生委員としては、未登録の方への支援が難しいので、この名簿には期待をしている。

高橋委員　・資料１ー６について、「わからない」の割合が多いが、「該当しない」も一緒の項目になっている。報告の仕方を工夫願う。

・地域の方との交流機会の増加についてはどういうことを想定していたのか。

黄木課長　・報告の仕方については、今後検討していきたい。

　　　　　・「地域の方との交流の増加」については、包括の中でのイベントや教室に参加する等の視点も踏まえてではある。

・サービスを利用するようになり、相談する経過の中で事業者と接点ができるとい視点も含めている。

佐藤委員　・資料１ー７について、Ｑ７「満足」が少なめという結果になっているが、そもそも研修が実施されていないのか、研修等が行われたが内容が満足できなかったのかどちらなのか。

　　　　　・研修の講師費用代などは区から補助があるのか。

黄木課長　・一点目については、両方の視点があるのではないかと感じているが、今回の話し合い時にその点も含めて包括に確認していきたいと思っている。

・人材育成については、各包括で内容を検討し、研修を実施している。

　　　　　・包括で開催する研修の予算については、委託費の中に含めている。

　　　　　・また、その他、区でも実施をしている。

早山委員　・資料１ー２について、見守りささえあいコーディネータの職種はどのようなものか。また、どこに出向いているのか。

黄木課長　・見守りささえあいコーディネータについては、包括の中で職員として担当いただいている。職種は様々である。

　　　　　・出向く場所としては、見守りキーホルダーの登録の支援等の場や社会福祉協議会のコーディネータとのかかわりも持ちながら地域づくりの活動をしている。

奈良会長　・他に質問はあるか。

・それでは、次の報告事項に移る。

報告事項イ「取組事例発表会について」、事務局から説明願う。

黄木課長　（資料２）

包括職員向けの研修として、各包括における「取組事例発表会」と有識者等を招いての「福祉講演会」を隔年で実施しており、今年度は取組事例発表会を開催する。包括での好事例の取り組みや、課題解決の手法を包括全体で共有することで各包括の機能強化につなげていくことなどを目的としている。また、包括職員のプレゼンテーション能力の向上を目指し、地域等へ発信力向上つなげていきたいと考える。本年は12月12日（月）に実施する。

発表テーマについては、日常生活圏域において包括や地域が抱える課題の解決方法、または解決のために取り組んだ事例となる。

発表包括は、南馬込、千束、蒲田、大森東の4包括で、各包括はパワーポイントを用いて20分程度で発表を行う。

現在それぞれの発表に向け作業を進めています。

当日は、本運営協議会奈良会長にご出席いただき、発表事例の講評や助言等を

いただく予定である。

奈良会長　　　・何か質問はあるか。

　　　　　　　・委員の方の出席も可能ということでよいか。

黄木課長　　　・感染症対策の観点から、参加人数は絞っているが、委員の皆様については、担当までご連絡いただければ参加可能である。

奈良会長　　　・それでは、次の報告事項に移る。

　　　　　　　　報告事項ウ「地域包括支援センターＷｅｂ会議について」、事務局から説

明願う。

黄木課長　　（資料３）

・令和元年度末頃から新型コロナウイルス感染症が流行し、対面での会議等の開催が徐々に難しくなり、包括職員から、Ｗｅｂ会議を実施できるようにしてほしいとの要望を受け、Ｗｅｂ会議の実施が可能となった。

・また、前期（第７期）の地域包括支援センター運営協議会から区への提言において、必要に応じてＷｅｂ会議等を取り入れ、業務の円滑化・効率化を目指すこととの意見をいただいていたため、必要に応じてＷｅｂ会議を開催できるように環境を整えた。

・Ｗｅｂ会議の活用としては、大田区や東京都の研修受講や、地域福祉課等との各種打合せや、個別支援関係等がある。個別支援関係については、利用対象者、家族、病院、包括とでＷｅｂにて打合せを行った事例がある。

今後も感染状況や相手の状況を踏まえつつ、Ｗｅｂ会議を有効に活用し、包括業務の円滑化・効率化に努めていければと考える。

奈良会長　　　・何か質問はあるか。

高橋委員　　　・Ｗｅｂ会議の使用例の中で、個別の支援もあるが、利用者の方も参加しているのか。

黄木課長　　　・支援会議など利用者も参加している会議もある。

奈良会長　　　・それでは、次の報告事項に移る。

　　　　　　　・報告事項エ「地域包括支援センター内部検討会について」、事務局から説明願う。

黄木課長　　（資料４）

・高齢福祉課では現場の実態や考えを取り入れながら、包括の課題整理及び機能強化の具体化に取り組むため、包括とともに内部検討会を実施している。現在３つの部会があり、センター長は必ずいずれかの部会に所属している。

・１つ目は事務改善部会で、７つの包括が所属し、包括の事務負担軽減を図ることや、適切な事業運営のための業務の改善策等を検討している。

・２つ目は見守り支援検討部会で、９つの包括が所属し、主に大田区の高齢者見守り・支え合いネットワーク事業の改善点を検討している。

・３つ目は認知症専門部会で、７つの包括が所属し、国が定めた認知症施策推進大綱に基づき包括職員の意見を参考にしながら、大田区の認知症施策の課題解決に向け検討している。

奈良会長　・それでは、次の報告事項に移る。

報告事項オ「シニアステーション事業の実施状況について」、事務局から説明願う。

黄木課長　（資料５）

・大田区シニアステーション事業は、平成28年度から、高齢者の元気維持や介護予防等を踏まえ、切れ目のない支援を提供することや介護予防事業の強化・充実を目的に実施している。

本日は、本年５月にオープンしたシニアステーション新蒲田の現在までの状況や包括との連携事例等について、シニアステーション新蒲田の責任者であり、包括新蒲田のセンター長でもある澤田センター長からお話しいただく。

澤田センター長

・本年５月の開設に向けてシニアステーションの講座内容を検討してきた。

・各日午前と午後にプログラムを実施し、他のシニアステーションへも訪問し、人気のある講師を紹介してもらうなど開設に向けて準備を行った。

・包括とも連携し、通いの場として周知をしていただいた。

・ひと月の利用者１０００名を目標に掲げ、10月には目標を達成した。

・スマホ講座等高齢者の方のＩＣＴ支援も実施し、身近に感じてもらっている。

・「カムカム体操」はオンラインで実施し、利用者の方にも好評である。

・体操だけでなく、紙芝居や演奏会などもオンラインで実施している。

・シニアステーション新蒲田は多世代交流を目指している。

　　　　　　　・シニアステーション新蒲田職員が地域ケア会議に参加し、蒲田地域管内の

他の包括も交えて、「男性の居場所づくり」について検討した。

　　　　　　　・通いの場としてだけでなく、出会いの場としての機能もある。

奈良会長　　事務局からの説明や現場からの状況報告があったが、質問等あるか。

高橋委員　　・10月のプログラムを拝見すると、すでに満員の講座もいくつかあるが、参加したい方が新たに参加できるような取り組みがあればと思う。

澤田センター長

・３か月を期間とし、受講者を決定している。

　　　　　　・参加できない方は次の機会に参加できるようにしている。

高橋委員　　・すでに工夫されていることがわかった。

奈良会長　　・他に質問がなければ、これで議事については終了する。

円滑な議事の進行にご協力頂き、感謝する。

事務局へお返しする。

黄木課長　　・ワクチン接種に関する情報提供になりますが、区では関連施設に予約支援員を配置し、高齢者のワクチン接種を勧めている。その一環として包括にも配置スペースを提供してもらい、10月24日から予約支援員を配置している。引き続き、区全体で進めていきたい。

・次回、第３回運営協議会は、令和５年１月30日（月）13時30分からの予定としている。詳細は日程が近くなったらご通知申し上げる。

・以上で、第２回地域包括支援センター運営協議会を終了する。